

【一葉の魅力③九州の大学では唯一所有する「モバイルファーマシー」 OCの
薬・看護学部合同訓練でドローンとともに使用】 2025/9/8公開



災害時に迅速かつ効率的に医薬品を供給できるよう、キャンピングカーを改造した車内に医薬品を積載・調剤できるように整備された「モバイルファーマシー（災害対策医薬品供給車両）」はご存知でしょうか？

第一薬科大学は九州の大学では唯一「移動薬局」とも称されるこの車両を所有しており、災害時における医薬品供給の対応と災害医療教育の一環として活用しています。9月7日に開催したオープンキャンパス（OC）での薬・看護学部合同訓練として、無人航空機「ドローン」を組み合わせた実証訓練を実施しました。参加者らが興味深そうに撮影したりしていました。



訓練は大規模地震や豪雨によって道路が寸断されたことを想定して、モバイルファーマシーが直接被災地に入れない状況を前提に、ドローンで医薬品を搬送する流れを公開しました。看護学部の洲崎好香教授が参加者らに状況を説明する中、薬学部の大光正男教授が車内に入って災害処方箋に基づいて調剤した医薬品をボックスに収納・施錠した上で、ドローンで空輸し、着地点では看護学部の学生が受け取り、薬を必要とする被災者らのもとへ届ける手順で実施しました。さらに、薬学部希望者は調剤、看護学部希望者は包帯法の実習をそれぞれ別室で体験しました。

この取り組みは、ドローンは「サワライズ」様のご協力により実現いたしました。8月に取材、記事を掲載された西日本新聞様に続いて、この日はTVQ九州放送様にも取材いただき、夕方のニュースで紹介されました。ご協力いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。